

今を生きる子どもを育む新時代の「立科教育」を実現しよう

<立科教育の目標>

- 人権を尊重し、思いやりと規範意識を持ち、社会に貢献できる人間の育成
- 自ら学び、行動し、豊かな想像力と個性でたくましく生きる人間の育成

<立科教育の特徴>

- 保小中一貫して
- ・本物に触れ自ら問いをもって学ぶ
- ・仲間といっしょにみんなで学ぶ

<令和6年度の子どもたち>

- 広く関わりを持ち、友だちと一緒に活動することを楽しんでいる。
- 自分の問いをもって学ぶことの良さを感じられるようになってきた。
- 自己と向き合い、自分の思いを大切にしながら生活している。

<令和7年度に願う 子どもの姿>

- 多様な他者と触れ合い、関係をつくりながら、対話によって課題解決していく姿
- 自分の問いを大事にしつつ、他者の思いも受け止めながら、共に追究していく姿
- 心身共に自分にとって安全な生活をつくるために、考え、行動する姿

<学校教育目標> つながり 学ぶ すこやかに

令和7年度の重点

つながる
～ 人とつながり、共に生きる ～

なぜ「つながり」を大事にするのか。
「つながり」は、「ひと」「もの」「こと」との間に生まれる関係性。よい関係性を結べれば、快適に生きていけるし、関係性が悪くなれば、生きづらくなる。このことを踏まえれば、より良い関係性＝「つながり」はおのずと大事になる。学校生活は「ひと」「もの」「こと」とつながる場面の連続である。下に記す多くの場面でよりよい「つながり」を生み出す。

学び続ける
～ 「問いを持つ」授業改善 ～

なぜ「学ぶ」ことを改めて目標にするのか。
「学ぶ」とは、自分の問いを生きていくこと。「問い」のないところに学びはない。「学ぶ」とは、そもそも主体的で能動的な行いであり、人間が本来、身に備えている能力でもある。「勉強」させるのではなく、学びを促す。一人一人が自らの「学ぶ力」を発揮できる学校として、下に記す研究テーマのもと、あらゆる場面で「学ぶ」姿を求めていく。

すこやかな毎日の暮らし
～ 心と体を開く取り組み ～

なぜ「すこやかに」と願うのか。
子どもたちが生活し成長していく現代は、変化が激しく、先の予測が困難な社会である。こういう世界の中を生き抜くためには、何よりも心身の健康が必要である。心も体もすこやかに生活できる環境を保障するとともに、自ら「すこやかな」暮らしを生み出せるたくましい人を育てたい。

校内でのつながり

各学級の中核的活動に全校が関わる場面
特別支援教育での交流及び共同学習の場面
縦割り班で活動する場面（児童会、清掃）

校外でのつながり

保育園との交流場面（読み聞かせ、パネルシアター）
中学校との交流場面（行事、教科での関わり）
地域との交流場面（学校からの発信、地域に向かう、地域から持ち込む、地域と一体で）

研究テーマ

シン・子どもから出発する学び
～問いや願いをもって学び続ける立科の子どもと教師～
このような子どもの姿を求める。
子どもが「問い」をもつ
本物に触れた姿、互いの感覚を分かち合う姿
子どもが「問い」を追究する
本質に迫る姿、知識技能を駆使して考える姿
子どもが学びを振り返る
自分が獲得した本当の価値を自覚し表現し合う姿

心理的安全性

体力増進と心を開く人間関係作り
多様性を認め合い、人権意識を高める協働的な活動の充実

安全指導

子ども自身が安全な生活をつくりだす指導

給食

食育の充実と地産地消の推進

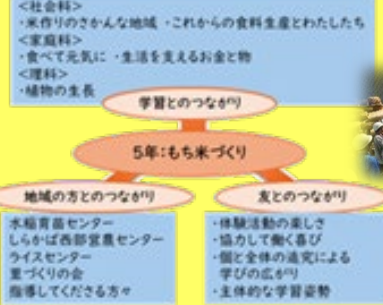
学級の中核的な活動と各教科との関連を活かしたカリキュラムマネジメントにより、目標達成を目指す。

<令和6年度 各学年の中核的な活動の例>

1年:羊の飼育 2年:お山での活動 3年:りんご学習 4年:みどりの少年団 6年:1年生との交流



<カリキュラムマネジメント例>



5年:もち米づくり

学校を支える地域の力・教師力

【検証・評価】
学校自己評価アンケートで【自分の考えや気持ちを言葉で伝える】の+評価が80%以上になる。

切れ目ない支援を可能とする
保育園・小学校・中学校の連携

- 以下に挙げる視点が保・小・中で一貫するよう連携していく。
- ・健康で安全な生活ができる環境づくり
- ・本物に触れ、自ら問いをもつ探究的な学び
- ・仲間とともに、みんなで進める協働の学び
- ・どの人もないがしろにされることのない人権教育
- ・どの人も必要な支援を受けられる特別支援教育

地域・家庭・学校の三者によるネットワーク
～ 情報発信と地域・家庭との連携 ～

- ・学校からの情報発信（学校だより、学年・学級懇談会）
- ・保護者との情報交換
- ・コミュニティスクールの組織を活用した体験的学習、社会見学、社会参加
- ・PTAとの連携（学級PTA 懇談会、PTA 講演会、PTA 作業、各種行事での連携）
- ・地域行事への参加（商工祭、町文化祭、書き初め展等）
- ・学習の過程や成果を地域へ発信する

教師力を高めるOJT
～ 授業改善と職員研修の充実 ～

- ・ウェルビーイング向上のための教員の働き方改革
- ・「子どもから出発する学び」を実現する授業づくりの研究
- ・教育DXを具体的に進める
- ・教員自らが学ぶ研修の充実
- ・職員間の情報共有
- ・働きやすい職場環境を互いの力で創り出す